



エコアクション 21 環境経営レポート

対象期間 2022年5月1日～2023年4月30日

発行日 2023年9月25日

HP <http://www.utsugi-metal.com/>

1. 会社概要

1) 事業所及び代表者名
株式会社 宇津木金属
代表取締役 宇津木大輔

2) 所在地
本社：
〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田 2-20-3
電話 049 (284) 1172
工場：
〒350-0161 埼玉県比企郡川島町長楽 219
電話 049 (297) 7882

3) 設立、資本金
設立：平成 11 年 7 月 22 日
資本金：3500 万円

4) 事業規模

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
産業廃棄物運搬量 (t)	1045	1164	1036.6
特別管理産業廃棄物運搬量 (t)	—	—	35.8
非鉄金属リサイクル量 (t)	535	531	396
鉄リサイクル量 (t)	496	488	584
売上 (百万)	320	371	347
従業員数 (名)	12	13	13

※特別管理産業廃棄物収集運搬業は 2022 年度より許可取得

※従業員数内訳

役員 3 名

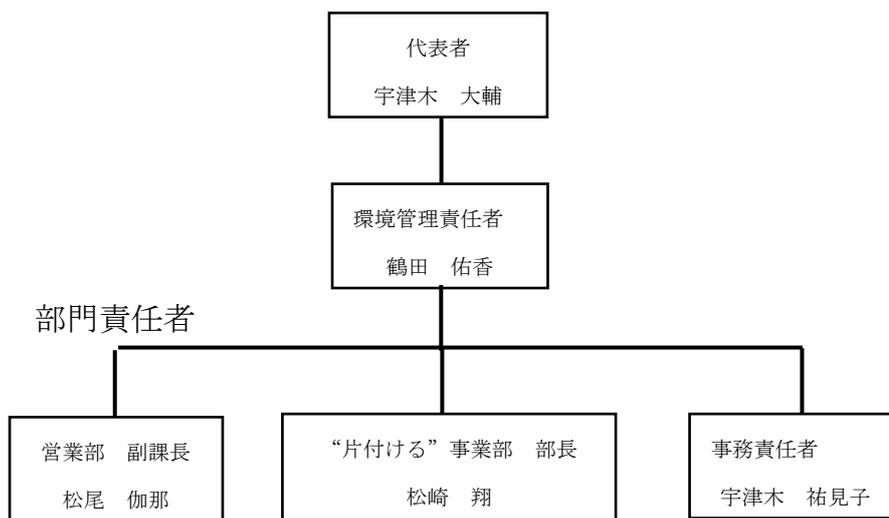
社員 6 名

パート (週 3~5 日) 8 名 ÷ 2 ⇒ 4 名

5) 認証登録範囲

全組織・全活動を範囲とする

6) 環境管理組織図



役割	責任及び権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ■環境方針の制定・誓約及び従業員への周知 ■環境管理責任者の任命 ■環境経営資源の確保 ■全体の取組状況の評価と見直し並びに指示 ■実施体制の見直しを毎年実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ■EA21 活動全般の構築・運営 ■EA21 の実施状況を経営者に報告 ■法令の見直し
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ■環境目標、環境実行計画の策定・実施 ■適用される法的要求事項の遵守
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ■環境目標、環境実行計画の実施

7) 事業内容

- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・非鉄金属回収及び販売業
- ・機械設備搬入搬出業

登録車輛

車体形状	最大積載量	台数
クレーン	2.25 t	1
クレーン	4.45t	1
パワーゲート	3.1t	1
パワーゲート	3.15 t	1
パワーゲート	3.0 t	2
平ボディ車	0.8t	1
バン	1.25t	1
バン	0.35t	1

2. 環境経営方針

【環境理念】

私たちは3世代先のゴミを片付けています。
かけがえのない地球を未来に引き継ぐことが、人類共通の重要課題であることを認識し、全社員一丸となって企業活動のあらゆる面で地球環境保全に配慮します。

【行動指針】

環境保全推進体制を構築し、下記の行動方針を定め積極的な取り組みを推進します。

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減し、環境への影響を最小限にとどめるため、次の取組を行います。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ グリーン購入の促進
 - ⑤ トラック燃費の向上
2. 環境関連法規ならびに当社が同意した協定その他を遵守します。
3. 環境方針等必要な情報は公開し、社員一人一人に周知します。
4. 地域社会との共生を図り、社会貢献活動に協力します。

改訂日：令和3年5月1日

株式会社宇津木金属
代表取締役
宇津木 大輔

環境目標・計画

3. 環境経営目標・計画

3-1 目標（中長期）

《売上の増減に係りのある項目》 売上金額1億円あたりで算出

環境目標		基準年実績 2020年	2021年	2022年	2023年
CO2削減※1	kg-co2/億		-1%	-2%	-3%
		33,248	32,915	32,583	32,250
ガソリン	ℓ/億		-1%	-2%	-3%
		3,245	3,212	3,180	3,147
軽油	ℓ/億		-1%	-2%	-3%
		9,300	9,207	9,114	9,021
廃棄物	Kg/億		-1%	-2%	-3%
		366	362	358	355

《売上の増減に係りのない項目》

環境目標		基準年実績 2020年	2021年	2022年	2023年
電力	kwh		-1%	-2%	-3%
		8,006	7,925	7,845	7,765
水	m ³		-1%	-2%	-3%
		69	68	67	66
トラック燃費	km/ℓ		1%	2%	3%
		5.8	5.85	5.91	5.97
グリーン購入※2	品目		40%	45%	47%
		9/22	10/22	11/22	12/22

※ 化学物質は使用していない

※1 二酸化炭素排出係数は東京電力の令和2年0.441kg-CO2/kWhを使用

※2 当社該当適合品目は紙、文具・事務用品の分野に絞り調査

購入率は、《購入済み適合品数÷当社該当適合品数》により算出

3-2 計画

	取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力
	1) 不要電気の off
	2) 冷房 28℃、暖房 20℃
	3) LED 照明への切り替え
	4) 節電の表示
	化石燃料
	1) エコドライブの推奨
	2) トラックの定期整備
	3) 走行距離の定期チェック
	4) 空気圧の定期チェック
廃棄物排出量削減	1) 有価物、廃棄物の分別
排水量削減	1) 洗車時の出しっ放し防止
	2) 節水の表示
グリーン購入	1) 事務用品のグリーン購入
	2) 該当品目の調査
	3) 他社の調査
トラック平均燃費の向上	1) エコドライブの推奨

4. 結果・評価

(集計期間：2022年5月1日～2023年4月30日)

目標項目	単位	目標・実績・評価				
		基準年	目標・実績			
		2020年度	2022年度			
		5～4月	5～4月			
		実績	目標	実績	結果	評価及び次年度の対策
売上の増減に関係のある項目 (売上金額1億円あたりで算出)						
CO2排出量	kg-co2	33,248	32,583	33,574	×	評価：二酸化炭素の排出量が増えてしまった
削減	%		△2	3		次年度：引き続きエネルギー使用削減に努める
ガソリン使用量	ℓ	3,245	3,180	3,070	○	評価：エコドライブの効果が出た
削減	%		△2	△3		次年度：エコドライブの強化
軽油使用量の削減	ℓ	9,300	9,114	9,543	×	評価：トラックの稼働率が上がった
	%		△2	5		次年度：エコドライブの強化
廃棄物排出量の削減	Kg	366	358	340	○	評価：解体精度を上げ有価物買取を積極的に行った効果が出た
	%		△2	5		次年度：引き続き解体選別の精度を高める
売上の増減に関係のない項目						
電力使用量の削減	kWh	8,006	7,845	9,938	×	評価：解体分別時に金属破砕機及び電気工具使用回数が大幅に増えた
	%		△2	20		次年度：掲示物による節電徹底及びクールビズ、ウォームビズの実施に積極的に取り組む
水道使用量の削減	m ³	69	67	83	×	評価：目標達成とはいかなかったが、昨年度の実績より削減できた(昨年度実績 84 m ³)
	%		△2	24		次年度：環境整備に気を付けながら、節水を心掛ける
トラック燃費の向上	km/ℓ	5.8	5.91	6.1	○	評価：燃費向上につながった
	%		2	4		次年度：定期的にミーティングを開き、その強化を図る
グリーン購入の促進	品目	9/22	11/22	12/22	○	評価：適合品を購入し使用するだけなので比較的容易に達成できた
	%	40	45	12		次年度：22品目に対し目標である50%以上の購入となる12品目以上の導入を目指す

※ 化学物質は使用していない

※1 二酸化炭素排出係数は東京電力の令和2年 0.441kg-CO₂/kWh を使用

※2 当社該当適合品目は紙、文具・事務用品の分野に絞り調査

購入率は、《購入済み適合品数÷当社該当適合品数》により算出

※3 二酸化炭素の総排出量 116,504kg-CO₂ ガソリンの総排出量 10,655ℓ

軽油の総排出量 33,116ℓ 産業廃棄物総排出量 340.5kg

5. 環境関連法規遵守状況及び違反、訴訟等の有無

法令名称	遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底 ・一般廃棄物の適正な廃棄処理の委託 ・取引業者との委託契約締結 ・マニフェストの取り交わし ・水銀廃棄物の適正処理 ・建設法によるアスベストの処理 	遵法
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・廃車時の処理費用負担（自動車リサイクル券の購入） 	遵法
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定家電製品廃棄時の処理費用負担（家電リサイクル券の購入） 	遵法
グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境物品等の選択・購入義務 	遵法
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽の定期点検 ・水質検査 ・清掃 	遵法
埼玉県生活環境保全条例	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの推進 ・エコドライブの推進 	遵法

令和4年4月に環境関連法規の遵守状況を確認した結果、問題はありませんでした。

尚、過去3年間、関係当局からの違反及び近隣からの苦情等の指摘はなく、また訴訟もありませんでした。

6. 代表者による全体の評価と見直し結果

本年度、目標達成できなかった項目は、

- ・ CO2 排出量の削減
- ・ 軽油使用量の削減
- ・ 電気使用量の削減
- ・ 水道使用量の削減

となった。

目標未達となった要因は次のことが考えられる。

【CO2 排出量、軽油使用量の削減】

弊社の事業活動で最も CO2 排出量に影響を及ぼす行為はトラックの軽油使用である。なので、ここでは軽油使用が増えた要因を説明する。

本年度宇津木金属では事業拡大の一環として活動エリアの拡大に力を入れた。従来の関東だけでなく、新潟、長野、山梨といった甲信越、そして静岡、計 4 県を新たな活動エリアとした。その甲斐もあり、4 県からの産廃、有価物回収依頼が増え、移動距離が例年に比べ大きく伸びた。

この結果が軽油使用量、CO2 排出量を増やしてしまうこととなった。

【電気使用量の削減】

目標に対し、20%増という大幅な目標未達となった。正直な感想を言えば、その原因が何だったのか分析は難しい。いくつかの仮説を立てたので下記に説明する。

一つ目は事務作業が増えたこと。全社員に対し通常業務終了後、日報作成を義務付けた。慣れない PC 操作による電力使用量の増加。

二つ目は、エアコンが古く効きが悪かったこと。常に設定温度の最大値に設定していたことによる電力使用量の増加。

【水道使用量の削減】

昨年に続き大幅な目標未達となった。この原因は明確で、洗車の回数が増えれば増えるといった単純なものだ。弊社では常にきれいなトラックでお客様のところへ向かうことがブランディングの一環であると従業員に対し厳しく教育している。そのため社員の洗車意識は非常に高い。故に繁忙期と閑散期の差が激しかった本年度は洗車の回数が例年に比べ多くなった。ただ、一度に使用する水量を各々がどれだけ意識できているのか、改めて節水意識を高める教育を行う。

【総括】

エコアクションを取り組み始めてから、早9年、持続可能な社会の実現を目指すためエコ活動を日々推進している。この活動のおかげで日々の行動も環境意識を持った行動へと変化していることは言うまでもなく、エコアクションに取り組んでよかったと日々実感できている。

しかし同時に削減を軸とした数値目標を達成していくことの難しさやその必要性に疑問を持ち始めている。

上記の目標未達の原因分析を見てもわかるように、エネルギーや資源の使用量は会社のおかれるその時の環境によって大きく変動する。弊社で言えば活動エリアの拡大、社員業務内容の拡大などサービスの質を高めようとすればするほど、エネルギーや資源の使用は増えるのではないかと考えるようになった。

そういった背景も鑑み、来期以降の取り組みとして削減目標だけでなく、現在弊社が本年度から取り組み始めたリユース事業に関する事項を目標に追加したいと考えている。

具体的には、産業廃棄物を回収しに行った際、排出事業者様の同意を得て廃棄物の中からまだリユースできるものを我々の目利きにより選定、それらを使いたいユーザーに届ける手続きを我々が責任をもって行うといったものだ。

この活動により、排出事業者様は本来廃棄物として費用をかけて捨てるはずだったものが無くなり、コスト低減につながり、我々はリユース品として販売利益を得ることができ、ユーザはほしい品物を安く手に入れることができる。いわゆる三方良しの法則が成り立つ事業となっている。

この活動に関する目標設定をエコアクションに新たに追加し、従業員のモチベーションアップへとつなげたい。